

## 新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行後の対応につきまして

検査部技師長 堀田多恵子

日頃の臨床検査についてのご理解とご協力に対して心より感謝申し上げます。

さて、ご存知の通り、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染症法上の分類が5月8日より2類から5類へと変更されました。これに伴い、以前は手術入院の前にPCR検査を受けていただき、陰性を確認してからの入院という流れでしたが、これらが廃止となりました。この変更により、患者さんのご負担を軽減できることを嬉しく思います。

また、発症の際にはPCR検査ではなく、抗原定量検査を行うことに変更しました。抗原定量検査はより迅速に結果を得ることができ、早期の診断や治療に繋がります。私たちは迅速かつ精確な検査結果を提供することを心がけて参りますので、ご安心ください。

COVID-19に限らず、このような変更があるたびに、患者さん、臨床医・メディカルスタッフの皆様には変更へのご対応とご理解をお願いすることがあります。ご協力いただけることに心から感謝しております。

ご質問やお困りごとがございましたら、いつでもお気軽にお声掛けください。

引き続き、ご理解とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



### 《今号の紙面》

検査部技師長よりあいさつ	…p.1
鉄分検査室	…p.2
新人紹介	…p.3
検査部からのお知らせ・編集後記	…p.4



# 鉄分検査室 第63回 《SL人吉最後の輝き》 白いかもめ



去年は日本の鉄道150周年であった。

明治五年九月十二日(1872年10月14日)新橋・横浜間に日本最初の鉄道が開業した。鉄道の歴史の最初は蒸気機関車の歴史である。

JRの前身の国鉄各線が本格的に電化するのは戦後復興で鉄道輸送力が戦前の水準に戻ってきたあたりからである。東海道本線全線電化は昭和31年(1956)11月19日で、山陽本線全線電化は昭和39年(1964)7月25日、東北本線全線電化は昭和43年(1968)8月22日、鹿児島本線全線電化は昭和45年(1970)10月1日と幹線の電化が進められた。

電化が進むにつれ蒸気機関車の生息域が次第に狭くなっていった。それに合わせこの時期一大SL(Steam Locomotive: 蒸気機関車)ブームが起こった。

蒸気機関車は、本州では昭和49年(1974)11月に、九州では昭和50年(1975)3月に姿を消した。最後に残っていた北海道では同年12月14日定期旅客列車が姿を消し、その10日後の12月24日貨物列車が姿を消した。



蒸気機関車の引退につれて保存の動きも生まれ各地で静態保存が進められた。

JR九州で蒸気機関車復活の動きが出た当時静態保存車両は50両以上あったが殆どが野ざらし状態であった。その中で保存状態の良い肥薩線矢岳駅前の人吉市SL展示館に静態保存されていた国鉄8620形蒸気機関車58654号機に白羽の矢が立てられた。

58654号機は、1世紀前の大正11年(1922)11月18日に山口県の日立製作所笠戸工場で完成した。最初は浦上機関庫に配属され長崎本線で運用された。その後各地に転属し最後は人吉機関区に転属し湯前線(現・くま川鉄道湯前線)で活躍した。廃車後人吉SL展示館に静態保存された。

昭和63年(1988)1月58654号機は、人吉SL展示館から小倉工場へ輸送され大掛かりな修復工事が施された。同年6月完工し、同年7月熊本運転所に配備された。熊本・吉松間で試運転を行い、その後客車を牽引しての訓練運転が行われた。同年8月28日豊肥本線熊本・宮地間で「SLあそBOY」として、次いで10月9日には熊本・人吉間で「SL人吉号」として営業運転を開始した。その後主に「SLあそBOY」として運行されたが台枠の歪みが生じ平成17年(2005)に運行中止となった。

平成19年(2007)小倉工場で台枠を新製した大掛かりな修復を行い、平成21年(2009)4月25日より「SL人吉」として熊本・人吉間で営業運転が再開された。その後熊本地震による運休等乗り越えたが、令和2年(2020)7月豪雨により肥薩線八代・吉松間が不通となり運休となった。不通区間の復旧の見込みはたらず令和3年(2021)5月1日熊本・鳥栖間で運行を再開し活躍している。



久留米駅を発車する「SL人吉」



JR九州は今年2月24日に老朽化のため令和6年(2024)3月23日で「SL人吉」の運行の終了を発表した。本来熊本・人吉間を走っていた「SL人吉」は元の線区に戻れないまま熊本・鳥栖間の運行で1世紀を越える走りに幕を下ろすことになる。おそらく九州内で営業運転の蒸気機関車が見られるのはこれが最後になると思われる。

1世紀を越える58654号機の勇姿を多くの人々が見たり乗ったりして記憶に留めてもらうことを願うばかりである。



# 新人紹介



秋月 芙水花 (あきづき ふうみか)

4月より病理部に入職いたしました、秋月 芙水花と申します。入職してからは、業務を通して様々なことを学ばせていただいております。慣れないことばかりではありますが、早く病理部の力となれるよう努力して参ります。趣味はキャンプで、幼い頃から両親に連れられよく行っていました。今でも実家に帰省しては家族でキャンプに行くことが多いです。近い将来、1人キャンプなどもやってみたいと思っております。これからどうぞよろしくお願いいたします。

後藤 万侑 (ごとう まゆ)

4月より病理診断科・病理部で勤務させていただいております後藤 万侑と申します。新人であるため、慣れないことばかりでご迷惑をおかけすると思っておりますが、一日でも早く貢献できるよう精一杯頑張りたいと思っております。

趣味はラジオを聞くこと、漫画を読むこと、旅行、食べ歩き、ショッピングです。今後ともよろしくお願いいたします。

野口 祐理香 (のぐち ゆりか)

今年の2月よりお世話になっております、臨床検査技師の野口 祐理香と申します。最近では社会人としての生活リズムを整えるためにも早寝早起きを頑張っています。特技は小学生のころから約9年間続けたバレーボールです。今でも部活で共に頑張った地元の友達とバレーボールをしています。最近では集まれていないので、運動不足を解消するためにも声をかけようと思っております。

これから臨床検査技師として九州大学病院で多くのことを学びながら成長していきたいと思っております。精一杯頑張ります。よろしくお願いいたします。

廣田 みなみ (ひろた みなみ)

4月より検査部に入職いたしました廣田 みなみと申します。検査技師としての経験もなく慣れないことばかりですが、先輩方のご指導のもと日々多くのことを学ばせていただいております。ご迷惑をおかけすることもあると思っておりますが、1日でも早く検査部の戦力となれるよう精一杯頑張っていきたいと思っております。甘いものが好きで休みの日にはよくお菓子作りをしています。どうぞよろしくお願いいたします。

## 新型コロナウイルス検査変更のお知らせ

日頃より、検査部の業務に対するご理解とご協力に感謝いたします。

令和5年5月8日(月)より新型コロナウイルス検査を以下の通り変更しましたのでお知らせいたします。

測定中止項目 COBAS6800による術前・入院時・診療用SARS-CoV-2 RNA定性(PCR)検査  
新規項目 SARS-CoV-2 抗原定量 検査

【感染症検査】 ■新型コロナウイルス検査

項目名称: 入院時SARS-CoV-2 抗原定量

診療用SARS-CoV-2 抗原定量

材料: 鼻咽頭ぬぐい液

(専用採取容器が必要です。検査部受付で配布します。)

測定原理: ECLIA法

単位: COI

基準範囲: 1.0未満

検体提出締切および結果報告時間: 1) 締切 11:00 → 報告 12:00

2) 締切 14:00 → 報告 15:00

3) 締切 16:00 → 報告 17:00



### 【編集後記】

新型コロナがようやく感染症5類に引き下げられました。マスクの着用は、院内では未だ必要ですが、一般には個人の判断に委ねられました。5類移行から早1ヶ月が過ぎ、通勤時の電車内では2.3割くらいの方々が外されているようです。

研究の現場では、対面でのディスカッションが多くなりました。私自身、ウェブよりも対面の方が圧倒的に面白いアイデアが生まれ、議論が盛り上がりやすいと感じています。時間と空間を共有することが共創力につながることを、コロナ禍は教えてくれました。

今年度より、検査部では隔週木曜日に研究会を行っています。検査部のさらなる進化のための試みです。門戸は誰にでも開かれています。ぜひ、白熱したディスカッションを対面で行い、次世代の検査科学を共創しましょう！

(瀬戸山)

